

科目コード/科目名 (Course Code / Course Title)	その他/演習 F18 (Seminars F18)		
テーマ/サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	生命・環境倫理学入門		
担当者名 (Instructor)	山本 剛史(YAMAMOTO TAKASHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	PCW3810	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

- ・生命倫理学と環境倫理学に関する各自の関心の惹起
- ・生命倫理学と環境倫理学に関する基本的なトピックや考え方の理解
- ・生命倫理学と環境倫理学に関するテキストの探し方と読み方の習得
- ・Stimulate individual interest in bioethics and environmental ethics
- ・Understand basic topics and ideas in bioethics and environmental ethics
- ・Learn how to find and read texts on bioethics and environmental ethics

授業の内容(Course Contents)

この演習では、生命倫理学と環境倫理学に関連するテキストを題材に、その内容に関する講師の説明および受講生の予習を踏まえて討論を行う予定です。

テキストはいわゆる狭義の哲学・思想書ではありません。生命倫理や環境倫理は医療者や患者、あるいは環境保護や公害反対に身を投じている人によって書かれたものにも現れています。また政府が発表している行政文書や国際規約への注目も欠かせません。

この演習を通して、思想と生活との関連を読み取って行動に生かすセンスが習得できたらしめたものです。

In this exercise, we will discuss texts related to bioethics and environmental ethics, based on the instructor's explanation and students' preparatory studies of the contents.

The texts are not only philosophy and thought books in the narrow sense. Bioethics and environmental ethics can be found in the writings of medical practitioners and patients, as well as those who are committed to environmental protection and opposition to pollution. It is also essential to pay attention to government documents and international conventions.

Through this exercise, we hope to acquire the sense to read the relationship between thought and life and apply it to our actions.

授業計画(Course Schedule)

1. 講義の具体的な進め方について+生命倫理学成立史と障がい者の問題 その1
2. 生命倫理学成立史と障がい者の問題 その2
3. 尊厳死・緩和ケアとその背景 その1
4. 尊厳死・緩和ケアとその背景 その2
5. 脳死・臓器移植について その1
6. 脳死・臓器移植について その2
7. 日本の環境倫理学と生命倫理学は原発事故に敗北した
8. 新しい環境倫理学をどう構想するか？
9. 公害との戦いの果て その1
10. 公害との戦いの果て その2
11. 風土と環境倫理
12. 福島第一原発事故後の風土と生活 その1
13. 福島第一原発事故後の風土と生活 その2
14. パリ協定の条文にはどのような思想が現れているか？

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

各回の資料はPDF化して事前に配信するので、必ず読み込んでください。

また、議論を通して考えたことについて小レポートとして、適宜授業後に提出してもらいます。

成績評価方法・基準(Evaluation)

最終レポート(Final Report)(40%)/平常点(課題)(60%)

授業全体の中から特に興味を持ったトピックについて、参考文献を複数読んだうえで最終レポートを書いて提出すること。また、

平常点課題は全体の3分の2以上の提出を課す。平常点課題の提出数が足りない場合は不合格とする。

テキスト(Textbooks)

無し。こちらから様々な文章をその都度配信します。(Blackboardの使用を予定)

参考文献(Readings)

1. 小林亜津子、2019、『看護のための生命倫理〔改訂三版〕』、ナカニシヤ出版 (ISBN:978-4779514050)

2. 吉永明弘/寺本剛、2020、『環境倫理学』、昭和堂 (ISBN:978-4812219348)

上記二冊は授業全体の入門として挙げておきます。哲学・思想としての生命倫理学と環境倫理学を理解するうえでも有益です。

以下、授業で実際に抜粋することを構想中の書籍等を列挙します。

D.ポンヘッファー『現代キリスト教倫理』/E.キューブラー=ロス『死ぬ瞬間』/小松美彦『脳死・臓器移植の本当の話』/ニユルンベルク綱領/ヘルシンキ宣言/「臓器の移植に関する法律」と、その運用に関する指針(ガイドライン)/島菌進『原発と放射線被ばくの科学と倫理』/U. ベック『危険社会』/緒方正人『テッポは私であった』/菅野哲『<全村避難>を生きる』/アルド・レオポルド『野生のうたが聞こえる』/オギュスタン・ベルク『地球と存在の哲学 - 環境倫理をこえて』/低線量ワーキンググループ報告書/パリ協定条文

授業の進行と受講生の関心の傾向によってこれらから削除ないし追加があります。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

この授業は「入門」と銘打ちながら、2分野の主要問題を網羅的に扱う授業ではありません。授業計画と参考文献に示されているように、扱うトピックには限りがあります。生命倫理学や環境倫理学の本質的な要素をいくつかの内容の濃いテキストから読み解いていく授業です。

また、特に予定通りすべて対面授業になった場合、テキストの各自の予習は不可欠です。

予習と課題に取り組む労をいとわない学生の参加を望みます。

注意事項(Notice)